

10. 地域高齢者の交流と地域環境の充実に生きがいを求めて

グループ名 高浜中西部ふれあいお茶会ボランティア

代表者 木暮 よしみ

1 活動の目的

- ① ビデオカメラの活用を通して、活動範囲の拡充と深化を図る。
- ② 地域から疎遠になりがちな人との交流で、相互に充実した時間を共有する。
- ③ 認知症施設「ひなげし」との交流で笑顔を増やし、屋外の環境整備もする。
- ④ 学童との交流で、児童の健全な育成を願う。
- ⑤ 県道沿い5か所の花壇運営で道行く人に感動と安らぎを与える。

2 活動の概要

- ① 「ビデオカメラの活用を通して、活動範囲の拡充と深化を図る。」について

ビデオカメラでの撮影から再生まで何回も聞いてやっとできた。この年になって新しく覚えるのは大変。使わないと忘れるので、なるべく使うようにしている。できることが増えて嬉しい。お茶会・食事会・花壇運営の場で撮影し、次回のお茶会や食事会で投影している。映像からその時を思い出し、自分を探し仲間を探して話題を広げる。満足そうな笑顔。拡充はできたが、深化はこれからの課題。

- ② 「地域から疎遠になりがちな人との交流で相互に充実した時間共有する。」について

お茶会や地域の事業に出られなく、ディサービスに行く人が増えている。家にいると「誰も来やしないよ。寂しいよ。」「地域のことが分からなく、取り残され気がするよ。」「だんだん体調が悪くなって困っているよ。」「みんなと一緒にレジ袋を敷いて草取りをした頃が良かった。」等と言う。そんな気持ちに何とか答えたい。訪問時、撮影したものをパソコンで再生してやる。「こんなことができるの。」「みんな元気でいいね。この人・・・さん。名前を呼んで懐かしそう。」「きれいだね。前もサルビアはあったよね。」嬉しそうな表情に良いことしているかなと思える。帰ろうとすると「もう帰るのかい。」と、引き止められる。1～2時間もお邪魔することがある。訪問は、思いながらも家族の許可なしではできない。訪問ができない時は、電話で話したり、手紙に書いたりする。「手紙は何回も読んだよ。」と。書いた甲斐があったと思う。でも、返事はこない一方通行。相手が喜んでくれればそれで良い。少しのお菓子でも、「私が貰ったのだから。」と、欲をかく人も。その気持ちにも納得する。行けないでいるうちに入院と言う人もいる。人の家への訪問は課題が多い。

- ③ 「認知症施設・ひなげしとの交流で笑顔を増やし、屋外の環境整備も。」について

「ひなげし」は認知症の施設。介護予防サーポーターボランティアとして、月2回は3人で訪問している。入所者は9人・ディケア1人を入れて10人。名前を呼んでやると

嬉しそう。訪問時、職員が付き添っているのです、こちらは、安心して対応できる。

内容は、ゲーム・歌・作品作り・踊り・手品・南京玉すだれ・皿回し・脳トレ・紙芝居・回想法（我が家の花や道具持参で）・ラフターヨガ等交流の幅は広い。今日は、何をしようかと考えるのも楽しい。大好きなのは歌。楽しそうで30分は歌い続けても平気。喉が乾く3時頃お茶になる。皆さんが参加できよう提示する手品・皿回しでは、普段何も言わない人の真剣な眼差しに、きっと嬉しいのだろう。と、こちらも嬉しくなる。帰りは、一人ひとりにラフターヨガで挨拶。「また来てね。」と、握手して喜んでもらう。

都合のつくボランティア11～12人位で、屋外の小さな畑・花壇・敷地の手入れをする。今の畑は秋冬野菜に。サツマイモ・ねぎ・ホウレンソウ・小松菜・小かぶ等があり、食材の足しになるという。職員がやる気なので栽培法も教えている。花壇・敷地の草取りは年間5～6回はするので大変。地域の皆さんが、嫌な顔をしないで気持ちよく動いてくれるのが嬉しい。みなさん、自前のお茶を用意するが、「ひなげし」でお茶・お茶菓子をしてくれる。そんな心配はいいのにと思いながらも期待してしまう。

④ 「学童との交流で、児童の健全な育成を願う。」について

学童も中が大変とかで「交流は難しいのかな。」と、様子を見ていた。8月になって落ち着いてきたとかで1回目の計画が立てられた。

手始めに、スカイクロスと皿回しでと思ったが、人数が多いので輪投げと「めんこ作り」も加えた。53人もの児童を動かすのは大変。先生は慣れたもので、「さすが。」と感心した。皿回しがすぐできるようになった子は「もっとやりたい。どこで売っているの。また来てくれる？」と、夢は広がっていた。皿回しをする私たちと学童との共演で、どこか訪問してのボランティア活動ができればいいと思う。スカイクロスは易しいルールで低学年児童も参加できた。徐々に難しくしようと思う。

70歳以上も違う年齢差に、時の流れ・隔たりを感じながら、今の子供たちを知る良い機会になった。「また来てね。」の言葉に押され、定期的な交流ができればと思う。

⑤ 「県道沿い5か所の花壇運営で道行く人に感動と安らぎを与える。」について

都合のつくボランティア・区の3役・環境委員で公共施設2か所と県道沿い花壇3か所の植栽・手入れをしている。

植栽は春・秋の2回。花苗は高崎市からいただく。植栽後の管理が大変。乾いていると、大きなタンクに水を汲んで散水する。春の植栽後は草が伸びる時期。月1～2回は除草をする。暑い時は「朝の涼しいうちにと7:00集合に。」早いのに皆さんよく来てくれる。集合時間よりも早く来て仕事を始める人もいて、何と有難いことか。それを恩にしないのがなお良い。作業時間は一回1時間余りがちょうどよい。それ以上すると嫌になってしまう。

「地域活動支援センターの畑の手伝いに行こう。」と活動範囲が広げられた。私たち3人かと思ったら、館長・地活センター長・栽培責任者も来てくれ、勢いが出て思いのほかはかどった。私たちだけでは、仕事に飲まれてしまうのに。応援に来てくれる気持ちが嬉しい。暖かい輪の一員になれた思いがした。

3 決算報告書

(単位：円)

収入	大同生命厚生事業団助成金	100,000
支出		
① ビデオカメラ関連		76,796
・本体(66,800)、SDカード・謝礼(9,996)		
② 訪問		4,849
・手土産(3,049)、作品材料費(1,800)		
③ ひなげし交流	・作品材料費等(4,336)	7,936
・交流用具(皿回し用皿・10組 3,600)		5,999
④ 学童交流		
・交流用具(スカイクロスコーン3個 3,053)		
手土産(2,946)		17,778
⑤ 花壇運営		
草かき・鎌(小 20個 9,630)		
腕カバー(16組 3,200) 一輪車(1,550)		
お茶等(3,398)		3,600
⑥ その他		
交通費(2,000) 事務・写真・他(1,600)		
合計		116,958

《まとめ》

10万円もの大金の助成ありがとうございました。基本的には、残るものに活用しました。私、個人の持ち出しがあった消耗品等にも少々活用できたので助かりました。

ボランティアをしての相手の満足そうな表情・言葉・しぐさに、自分も嬉しく「いいことをしたのかな。」と思えました。また、道行く人から「きれいだね。縦横斜め良くそろっているね。何と言う花。」と、声をかけられ、ますます張りきる元気をもらいました。

ボランティアの他に月1回の食事会・お出かけ等で、自分たちのための楽しみも忘れず交流を深めリフレッシュしています。

このボランティア活動での作業・情報交換等で、人間関係の広がりや深まり、一人ではできないが皆さんのやる気・連帯感・まとまりに押されてできることを実感しました。どんな場面でも皆さんの力ってすごいと思っています。家にいれば、テレビを見て昼寝でもしてしまうのに、満足できる良い時間設定ができました。ありがとうございました。

相手の喜びが自分の喜びに、充実感に・生き甲斐にとかわる。こんな時間を益々増やそうと思います。自分たちの心身の健康を維持しながら。

以下、時々場面をいくつか。②の活動は、個人情報の公開になるので割愛を。



<この日のボランティアさん勢ぞろい>



①お茶会でのビデオカメラの活用



③クリスマスツリー作りで交流



③ 花壇と敷地の草取り



④ 学童との皿回し



④ 学童とスカイクロスで



⑤ 春の植栽



⑥自分たちの楽しみ（焼き肉）